

海外生活 エッセー

シンガポール事務所

“風水の国” シンガポール ～街なか歩きで運氣もアップ!～

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 能村 貴満 (大分市派遣)

近代的な高層ビルや個性的なデザインの建物が建ち並ぶシンガポール。実はその多くが「風水」に基づいたデザインなのだそうです。中華系の国民が約4分の3を占めるシンガポールでは、風水によって建物の位置や角度、形などが決められており、建設途中のビルでさえ風水によって設計変更されることがあるそうです。

今回はそんなシンガポールの驚クレアな風水事情をご紹介します!



風水にまつわる建物が集まるマリーナベイ地区

→ 富と繁栄を象徴するマーライオン

シンガポールのシンボルであるマーライオン。マーライオンは東の方角に向かって元気良く水を吐き出しています。風水では、東は「繁栄」、水は「金運」を表すとされています。

実はこのマーライオン、以前は別の場所にあり、世界三大がっかり名所の一つとも言われていました。そして、その視界を遮るように橋が架けられた1997年にアジア通貨危機が起こりました。激しく景気変動する中、マーライオンは「水」、多くの車が走る橋(道)は「火」を表しており、マーライオンの力を橋が塞ぎ弱めると主張する風水師の勧めもあって現在の場所に移設された2002年以降、シンガポール経済は順調に回復したそうです。

→ 最高の「気」を呼びこむ巨大観覧車

2008年4月にオープンした巨大観覧車シンガポール・フライヤーは、風水的には最高の立地にあり、最高の「気」をすくい取ってシンガポールにもたらしている

とされています。実は、開業3カ月で回転が逆になったのをご存じでしょうか?

当初、観覧車は反時計回りに回転していたのですが、「観覧車の回転方向が悪い。このままでは富や幸運がこの街から逃げて行く」という意見が出たため、多額の費用を投入して7月に時計回りに変更されました。偶然にもこの後、世界金融危機が起こりました。もしかすると、この観覧車のおかげでシンガポール経済は最悪の事態に陥らずに済んだのかもしれない。

ちなみに、観覧車のゴンドラは28個、各ゴンドラの最大定員数は28人と、中華系の人々にとって縁起の良い「2」と「8」が使われています。

→ 完璧に風水を施されたあの建物!

シンガポールの新たなランドマーク“マリーナベイ・サンズ”。建物を横から見ると漢字の「入」という形になっており、風水的にもとても良いとされています。また、風水において水は「金運」を表しますが、このホテルは屋上のプールと海、つまりお金に挟まれているのです。

隣接するショッピングモール内には、各店舗に財を運ぶ水路や天井から水が落ちてくるように設計された巨大な逆噴水もあります。風水を効果的に取り入れ、遠い将来まで金運が上昇するように設計されているのです。

ちなみに、カジノフロアでは、ディーラーの立ち位置やテーブルの配置などもお金を呼び込むように細かく設計されているのだそうです。

ここで紹介したもの以外にもまだまだあります!さらには、1ドル硬貨にも風水的なデザインが施されています。今度シンガポールを訪れたら、1ドル硬貨を財布にしのばせて、風水を意識しながら街歩きをしてみたいかがでしょうか?

信じるか信じないかはあなた次第です!